

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立島津小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る」 (知) 意欲的に学習に取り組む子ども (徳) 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども (体) 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 網野学園「教育目標・目指す子ども像」の実現を目指し、学園の園所や小中学校の保育・教育から謙虚に学び、常に自校教育の改善に努める。		○重点研究を総合的な学習の時間・生活科とし、探究的な学びの充実に向けた実践を積み上げることができた。 ○心の不安定な児童に対して SC や SSW や関係機関、家庭との連携を図り、適切な支援を行うことができた。 △ゲーム・SNS 等による生活習慣の課題改善に向けて取組を継続するとともに家庭との連携を強化する。 △個に応じた具体的な支援について特別支援教育コーディネーターを中心とした組織体制・研修を充実させる。		安心感の中で一人一人が自分らしく挑戦し、輝き続ける学校づくり～肯定的評価を基盤とした教育活動の展開～ 【大切にしたい5つの重点】 ・学習・生活における誠実な努力 ・約束を守り、自他を大切にすること ・知恵を集め、新たな価値を生み出す力 ・児童・教職員の達成感と次への意欲 ・保護者・地域からの信頼	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
学校教育指導の重点、 諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・重点研究を総合的な学習の時間・生活科とし、昨年度積み上げた探究過程をさらに深める。特に、各教科等における探究的な学びの波及についても研究し児童の意欲や主体性、見通しを引き出す指導を進める。 ・生徒指導提要の改訂趣旨も踏まえ、肯定的な評価に基づく居場所づくりを大切にしながらコミュニケーション能力の向上を図り授業・学力向上の取組を進める。 ・昨年度と本年度の学びのパスポートの結果について網野学園で進める「認知能力と非認知能力の一体的な育成」の視点を踏まえ、効果的な結果分析のあり方等を研究し、経年変化からの個の学力状況・今後の課題等の把握に努める。		○本校が市保幼小中一貫教育授業研究会にて公開授業を実施し探究的な学びへの研究の充実とともにその成果を広く市内に発信することができた。 ○学びのパスポート質問調査「学校では安心して学習することができている」はどの学年も府平均を大きく上回り、安心感の中で学びを深めることができた。 ○生活科・総合的な学習の時間において地域人材活用のあり方の研究が進み、活用が学びの質の向上につながった。 △個別の学力課題への対応・改善を継続し仲間とともに自信をもって学びに向かう意欲の向上に努める。	・地域連携や地域学習の取組について地域から評価の声をよく聞いている。 ・学校に保護者・地域が入りやすくなり、学習の様子の共有とともに学ぶ機会が充実してきている。 ・児童のよい関係が、学習への落ち着きにつながっていると感じる。 ・少人数のよさも生かし、一人一人に応じた授業や支援をさらに進めてほしい。
	生徒指導	・肯定的評価や安心安全な居場所づくりと学級経営の連動について研修を定期的実施し児童のよさ、誠実な努力を引き出す指導を大切にする。 ・特別活動等において児童の発想や主体性を大切にし、失敗の中から学び、工夫・創造し挑戦する力を高めるとともに自他の成長を喜び合える力を育成する。 ・部会の定例化とともに日々の気づき、交流の中から児童の変化への丁寧なアセスメントを行う。その際、具体的な動きづくりにつながる役割分担のあり方等、方針を明確にし、対応の向上充実に努める。		○児童アンケート「学校は楽しい」は98%、保護者アンケート「学校が子ども一人一人を大切にしたい指導をしている」は96%と安心感の中で学校生活を送る児童が増えた。 ○異年齢活動をととして子ども主体の行事・取組を設定する中で、一人一人の主体性や仲間との協働性を高めることができた。 △家庭状況等からの心身の不安定や学校・集団への不適応等の改善に向け、より一層家庭、SC や SSW、関係諸機関との連携を強化する必要がある。	・朝のあいさつの声がよくなった。地域もその声に元気をもらっている。 ・教職員が一人一人を大切にしたい対応や支援をしていることが窺える。チームワークのよさを感じる。 ・高学年が中心となり、生き生きと行事や取組を進める姿がよい。その姿が低学年のあこがれでもあり、その思いをつないでほしい。

健康（体育）・安全	・運動の楽しさや喜び、心身の健康の大切さを感じさせる授業や活動を推進する。 ・望ましい生活習慣の確立と安全な登下校、事故防止に係る知識・実践力を高める指導を推進する。	・本校の特色である異年齢活動を生かしながら、仲間とともに活動する心地よさを感じさせるとともに、授業や体育の行事・取組の中で「自分に適した場や運動の設定」を大切に自分らしく意欲的に挑戦させる。 ・課題の見られるゲーム・SNS等の視聴について網野学園「これだけは！（家庭編）」や「情報モラルアンケート」等を踏まえ、家庭ルール確立に向けた啓発を継続する。 ・安全な登下校への取組や交通教室等、PTA・学園・関係諸機関との連携を強化する。	○一人一人の状況や思い願いを大切にした活動の場や仲間との一体感、所属感を感じる活動を大切にする中で「遊びや運動が好き」という児童が増えた。 ○島津駐在所や関係諸機関と連携し防犯や交通安全等について学ぶ機会を大切にし、安全意識や実践力向上につなげることができた。 △保護者アンケートからは「ゲームやネット視聴の約束」や「就寝時刻」の課題が窺える。学校・学園からの啓発と保護者との連携を継続する。	・社会体育等で生き生きと活動している児童が多い。学校で遊びや運動をとおして心地よさや楽しさを感じていることが窺える。 ・家庭生活のあり方や保護者同士の関係が児童の生活習慣に表れてくる。学級懇談会や親子行事等での保護者のつながりづくりも今後より大切である。
特別支援教育	・個々の特性等を組織的に捉え共有することに努め、適切な支援をとおして児童が学び合い、育ち合えるようにする。	・特別支援コーディネーターを中心に児童支援に係る部会を定例化し、現状や課題・手立て等について協議する中で、よりよい支援のあり方を探り、実践する。 ・特別支援教育に係る研修を充実させ、個別支援とともに通常学級における個と集団の支援のあり方について研究を進める。 ・具体的な方針に基づく保護者との面談を定期的に行い、児童の特性とともによさや成長を確かめ合う中で、合意形成に基づく支援を進める。	○教育支援部会を定例化し、児童実態や変容を定期的に共有することができた。 ○事例研究等、具体的な支援のあり方等について研修し児童支援の充実に努めた。 ○保護者との面談等を大切にし思いや願いを把握し、児童の成長やよりよい支援のあり方を共有することができた。 △個と集団の支援のあり方やバランスを一層大切にさらに研修を深める。	・得意なことや苦手なことはそれぞれ違うが、行事や取組の中で一人一人のよさが発揮され、認め合う姿が見られる。 ・小規模校ではあるが、多様な子どもたちが生活している。安心して学習・生活できる環境づくりをさらに進めてほしい。
情報活用能力（ICT活用）	・探究的な学びの充実につなげる活用のあり方について研究を進める。 ・家庭学習をはじめ広く教育活動における活用の手法を研究し個別最適な学びの実現を目指す。	・児童の考えや学びをつなぐツールとしてICTをいかに活用するかを研究する。 ・本年度は「PCタイム」（情報活用スキルを高める時間）を設定し、授業で活用するアプリや機能を系統的に学ばせていく。その中で情報モラルや活用ルール等も発達段階に応じて指導し日々の活用の質を高めるよう努める。 ・「整理」「探究」「予習」「補習」等、家庭学習におけるICT活用の視点を研究し、授業と家庭学習とをつなぐ。	○授業でのクラウド活用による共同編集や他者参照等のあり方について研究を進めた。「使う」から「効果的な活用」へと質的向上を図ることができた。 ○「PCタイム」の運用は児童の情報活用スキル向上につながった。本年度実践を整理し次年度のより系統的・効果的な運用を目指す。 △タブレット持ち帰りによる家庭学習が一定定着し、今後さらにその活用のあり方や内容充実のため、保護者への説明や啓発を継続し連携・納得の中で家庭学習での活用を探る。	・ICTスキルの差が学習や学力の差にならないか心配をしていたが、授業参観等で全体のスキルの高まりや個別の対応の充実が見られ安心した。 ・タブレットに向かっている時間とともに友だちとのコミュニケーションの時間とのバランスも大切にしてほしい。
次年度に向けた改善の方向性	・探究的な学びの充実やICTの効果的な活用をすべての教室で着実に進め、子ども主体の授業改善をさらに推進する。 ・学びのパスポートや各種学力調査等の結果からより一人一人の学力・学習状況の把握・改善を推進する。 ・児童が考え、実践し、失敗から学ぶことができる主体性を育む特別活動を推進する。 ・特別支援教育を中心に多様な課題への支援、関係諸機関との連携による保護者・家庭支援を大切にする。 ・タブレットの持ち帰りや家庭学習での活用を契機に、家庭連携による情報活用モラルの向上や適切なルール作りを推進する。			・今後保護者・地域との連携がますます重要になってくる。学校の進める教育を積極程に発信してほしい。協力は惜しまない。